

鳥インフルエンザ Q&A

～ 野鳥・飼育鳥類関係 ～

Q 1 . 野鳥との接し方はどうすればいいのでしょうか？ 野鳥が死んでいたら？

A 1

死亡した野鳥など野生動物は、素手で触らないでください。また、同じ場所でたくさんの野鳥などが死亡していたら、手を触れずにお近くの都道府県や市町村役場にご連絡ください。

(滋賀県の場合)

1 発見場所の市町

または

2 発見場所を管轄する森林整備事務所

* 時間内

中部森林整備事務所(東近江市・近江八幡市・日野町・竜王町内で発見した場合)

0 7 4 8 - 2 2 - 7 7 1 8

* 時間外 県庁(守衛室)

0 7 7 - 5 2 8 - 3 1 4 0

日常生活において、野鳥など野生動物の排泄物等に触れた後には、手洗いとうがいをしていたら過度に心配する必要はありません。

野鳥の糞が靴の裏や車両に付くことにより、鳥インフルエンザウイルスが他の地域へ運ばれる恐れがありますので、野鳥に近づきすぎないようにしてください。特に、靴で糞を踏まないよう十分注意して、必要に応じて消毒を行ってください。

不必要に野鳥を追い立てたり、つかまえようとするのは避けてください。

鳥インフルエンザウイルスは、野鳥観察などの接し方では、ヒトに感染しないと考えられています。

お子様に、死亡した野鳥をさわらせないようにしてください。

野鳥も様々な原因で死にます。飼われている鳥と違って、エサがとれずに衰弱したり、環境の変化に耐えきれずに死んでしまうこともあります。また、野鳥が死んだ場合には、鳥インフルエンザウイルスだけでなく、様々なウイルスや細菌、寄生虫が人に感染するのを防ぐことが必要です。野鳥が死んでいるのを見つけたときは、こうしたウイルスや細菌、寄生虫に感染しないよう、死んだ鳥を素手で触らないようにしましょう。死んだ鳥の処分の仕方については、上記(森林整備事務所)のところに相談願います。

Q 2 . 鳥を飼っていますが、注意することは？ 死んでしまった場合は？

A 2

国内で鳥インフルエンザが発生したからといって、直ちに家庭等で飼っている鳥が感染するということはありません。鳥を飼うときに次のことに気を付けていただければ心配する必要はありませんので、飼っている鳥を野山に放したり、処分をするようなこと

はしないで下さい。

* 鳥インフルエンザウイルスを運んでくる可能性がある野鳥が近くに来ないようにしましょう。

* 鳥を飼っている場所はこまめに掃除し、フンはすぐに片付けましょう。

* 餌や水はこまめに取り替えましょう。

* 鳥の体やフンに触れた後は、手洗いとうがいをしましょう。

* 口移しでエサをあげたりするのはやめましょう。

これらは、鳥インフルエンザウイルス以外の鳥が持っているかもしれないウイルスや細菌、寄生虫から自分の身を守ることにもつながります。

鳥は生き物ですから、人と同じようにいつかは死んでしまいます。そして、その原因も様々ですから、鳥が死んだからといって直ちに鳥インフルエンザを疑う必要はありません。原因がわからないまま、鳥が次々に死んでしまうということがないかぎり、鳥インフルエンザを心配する必要はありません。原因がわからないまま、鳥が連続して死んでしまった場合には、その鳥に素手で触ったり、土に埋めたりせずに、なるべく早く獣医師やお近くの家畜保健衛生所に相談下さい。（滋賀県家畜保健衛生所 0748-37-7511）

Q3 . 学校で鶏を飼っていますが、どのようなことに注意すれば？

A3

< 症状 >

鶏が食欲をなくし、体を膨らませてうずくまっているときは何らかの病気にかかっているときですが、このウイルスに感染した場合は、多くの場合、元気をなくし、すぐに死んでしまいます。餌も水も足りていて、複数の鶏がバタバタ死ぬ場合は、この病気かもしれません。その場合は、すぐに家畜保健衛生所（0748-37-7511）に連絡してください。鶏舎に入らず、また素手で触らないようにしましょう。

< 感染防止 >

* 鶏が、野生の水鳥や水鳥の生活水と接触することを避けましょう。

* 掃除の時には、餌の食べ残しや餌こぼれを片付けましょう。また、餌を保管する入れ物には必ず蓋をし、野鳥やネズミが来て病気をうつす機会をなくしましょう。また、鳥の餌を入れた入れ物を野外に放置しないようにしましょう。

* 飲用水には水道水を使用し、水鳥が近くにいる川や池の水は決して使用しないで下さい。

* 飼育舎の周辺に防鳥ネットを張るなど、スズメなどの野鳥やネズミなどの小動物が飼育舎に侵入するのを防止してください。

* 飼育舎の金網に穴などがあれば補修しましょう。

* 飼育舎の出入口には消毒槽を設置して下さい。

Q 4 . ペットで鶏や小鳥を飼っていますが大丈夫ですか？

A 4

鳥インフルエンザは鶏やアヒルの他にも、色々な種類の鳥に感染することが知られていますが、国内で鳥インフルエンザが発生したために、これまでペットとして家庭などで飼育していた鳥が直ちに危険になるということはありません。

鳥に限らず、動物を飼う場合は、動物に触った後は手を洗うこと、糞尿は速やかに処理して動物のまわりを清潔にすることなどを心がけることが重要です。

また、家きんを飼育されている場合は、高病原性鳥インフルエンザの感染を予防するため、鶏舎に網を張る、水道水を与えるといった予防策をお願いします。

また、鶏などの家きんの健康状態に異常があった場合は、家畜保健衛生所（0748-37-7511）に、飼い主が身体に不調を感じた場合は早めに医療機関を受診することも大切です。

Q 5 . どんな消毒薬が有効ですか？

A 5

インフルエンザウイルスは壊れやすい膜で覆われているので、消毒により容易に感染性を失います。次亜塩素酸ナトリウム液、アルカリ液、ホルムアルデヒド液、クレゾール液、逆性石けんなどの消毒薬が有効です。逆性石けんについては、一般の薬局で市販されています。

例) 逆性石けん：「オスバン」や「塩化ベンザルコニウム」など、一般の薬局にあります。

- ・ 100～200 倍の希釈濃度が手指の消毒に推奨されています。
- ・ 500～1000 倍くらいに希釈して、飼育舎全体に噴霧するのも効果的です。
塩素系：学校のプール消毒に使用する「ピューラックス」が一般的です。
- ・ 1000 倍希釈で飼育舎全体に噴霧する方法が良いでしょう。
台所用塩素系漂白剤でも効果があります。
水 5L に対してキャップ 2 杯の希釈濃度で、長靴の底や器具の消毒に利用できます。

Q 6 . 家きんへの感染経路としてどのようなことが考えられますか？

A 6

本病は渡り鳥、特に水鳥はインフルエンザウイルスを保菌しており、ウイルスをふん中に排泄することが知られています。

空気感染は主要な感染ルートとは考えられていませんが、ウイルスに汚染された人、器具・機材、車、飼料、水、ネズミなどの野生動物やスズメ・カラスなどの留鳥などを通じて伝播が起これると考えられています。